中国で日本人の死刑を執行

日本にもいる中国人死刑囚

死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）

中国で４人の日本人の死刑が執行されました。４月６日に１人、９日に３人、いずれも麻薬密輸罪で、執行の前日、家族らと面会したと伝えられます。

日本政府はこの執行について「懸念」「残念」を表明するばかりでしたが、もっと強い抗議を行っていれば、少なくとも２回目の執行は控えられたのではないかという声もあります。

確かなことはわかりませんが、日本政府が中国を強く批判できないのは当然かもしれません。日本にも中国人死刑確定囚が何人もいて、執行の日を待っており、すでに昨年７月には中国籍の陳徳通さんを執行しているのですから。

★☆★

昨年の「政権交替」前、当時の森英介法相の「駆け込み執行」によって東京拘置所で処刑された陳徳通さんは、２００８年に日本の死刑廃止団体にアピールを寄せていました。中国語の原文を訳したものを紹介します。
（『命の灯を消さないで』インパクト出版会より）

「私は拘置所に勾留されてから、よく懲罰を受けています。拘置所の規則が分からないからです。それに、言葉が通じないためです。私は日本に来てからは、家族と一度も会ったことはありません。とてもつらいです。……家族に写真に送りたいから写真を撮らせて欲しいと申し出ましたが、全く許可されません。……あの事件でこのような結果になるのを私は全く予測できませんでした。まして、日本の法と治安に違反するとは。日本政府に本当に申し訳なく思っています。日本政府に許して頂けますように真摯にお願い申し上げたいです。日本政府に誠心誠意を以って慙愧の気持ちを表したいと思います。私は必ず心を改めて出直します。早く私を帰国させて欲しいです。……」

★☆★

中国で処刑されてしまった日本人たちも同じような思いでいたのではないでしょうか。彼らの犯した罪は、日本でならせいぜい懲役○年の事件だと言われます。また、言葉も通じぬ地で公正な裁判ができたのかについても問題視されています。同じ疑問は日本の死刑についても向けられることではないでしょうか。事前に予告をし、家族との最後の面会の機会を与えたことなどは、日本よりも「人道的配慮」を行っているようでさえあります。

★☆★

外国で日本人がその国情を知らぬまま罪を犯し、あるいは冤罪を受け、死刑を宣告されることはこれからも起こるでしょう。日本政府は、国民は、「あれは犯罪者だから」と見捨てるのでしょうか。日本の死刑を「容認」してきたように。